

中村・栗賀地区は、雄大な山並みや観光資源に恵まれた神河町にあって、季節行事や地域を支える人々の活動が盛んなまちです。地域を担う人々が拠り所とし、日常的に集う「まちのリビング」のように、新しいつながりを創ったり、まちの魅力発信をしたり、誰もが思い思いに過ごし、世代を超えて笑顔があふれる、この場所ならではの公園をめざします。



実施設計説明書

1 設計方針

■ 多世代が集う「まちのリビング」

気軽に立ち寄り思い思いの過ごし方ができる「まちのリビング」のようににぎやかな場所、静かな場所、オープンな場所、囲われた場所、軒のある場所など、訪れた人が気分に応じて選べるような場所づくりを行います。

■ まちの資源をむすび、拠りどころとなる「はらっぱ」

新しい公園・コミュニティ施設は、健康・学びの拠点と位置付けられます。親しみやすいオープンな佇まいとするとともに、歴史や文化の中心となる銀の馬車道エリアや主要幹線道路である国道312号線エリアと連携しやすい動線、共同イベントにも対応するゆとりある中央広場「はらっぱ」を計画します。

■ 街並みに調和し、にぎわいを発信する「新しい風景」

敷地は、歴史ある銀の馬車道と現代的な幹線道路の間に位置しています。古くからの街並みと調和するよう、建物を分節し、勾配屋根で軒深い表情を作ります。リズム感のある屋根とガラススクリーン主体で構成し、にぎわいや灯りが国道側から感じられるように計画します。

2 敷地概要

計画場所 : 兵庫県神崎郡神河町栗賀町561番地周辺
区域指定 : 都市計画区域外
用途地域 : 指定なし
その他 : 神河町中村・栗賀町地区歴史的景観形成地区
敷地面積 : 18,660.88 m²
法定建蔽率 : 指定なし
法定容積率 : 指定なし
周辺道路 : 東側 町道町西線 (幅員約3.5m)
西側 町道吹屋垣内線 (幅員約8.2m)
南側 町道栗賀薬師溝線 (幅員約2.6m)



【位置図】

3 建物概要

主要構造 : 混構造(鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造
及び鉄骨鉄筋コンクリート造)
階数 : 地上1階
建物高さ : 7.92 m
建築面積 : 1,040.31 m²
延床面積 : 841.65 m²
駐車台数 : 80台 (思いやり駐車場2台を含む)
バイク
駐車台数 : 5台
駐輪台数 : 30台 (自転車及び原動機付自転車)
蔵書数 : 約25,000冊

4 配置計画

◆ 動線計画

- ・ 国道312号線と銀の馬車道をつなぐ主園路を設定し、はらっぱを中心に多様な庭をゆったりめぐる回遊性の高い計画とします。
- ・ 常時の動線は国道側を想定し、第1駐車場を南西に配置することで敷地内の歩車分離を図ります。東西に長い敷地形状のため南東に第2駐車場を設け、利便性やイベント時の駐車に配慮します。
- ・ 建物は利用者が管理者も使いやすいように1棟に集約します。国道側と銀の馬車道側のつながりを意識し園路に沿った配置とします。

◆ ゾーニング

- ・ 公園の中心に、開かれた交流の場「はらっぱ」を計画します。はらっぱには遊具の設置を想定し、想像力を持って自由に過ごせる場とします。
- ・ はらっぱの周囲に「ちびっこの庭」「健康の庭」「散策の庭」など多様な庭を配置し、多世代が心地よく過ごせる居場所づくりを行います。
- ・ 災害時利用に配慮し、緊急時にヘリコプターの離着陸も可能なスペースをはらっぱの一角に設定します。



【配置図】

5 外構計画

◆ 園路計画

- ・ 第1駐車場にはコミュニティバスを想定した車寄せや大型バス駐車場、おもいやり駐車場を整備します。
- ・ 主園路と遊歩道はウォーキングなども楽しめるよう長短のコースを設定し、管理車両等の通行にも対応した舗装とします。また、駐車場や主園路、3×3コートは、大型車の通行も可能な仕様とし、災害時やイベント時に備えます。
- ・ 園路の幅員に変化をつけ、イベントや休憩など多様な使い方が可能な計画とします。

◆ 植栽計画

- ・ 周囲の町並みや自然に溶け込み、神河町、粟賀地区らしい風景を大切に植栽を選びます。管理しやすい常緑樹を基本とし、生育環境に配慮します。
- ・ 桜華園の桜から数種類を抽出し、1本1本が記念樹のように感じられるデザインとします。
- ・ 駐車場の緩衝帯として築山や低木を設け人々の活動の場と駐車スペースを安全に分離します。



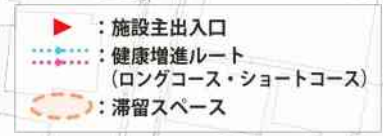
【静寂の庭】
山並みへつながる静かな行まい
読書室の北向きの窓から見える景色を形成します。遊歩道沿いに植えられた樹木は、適度に視線を遮り、静かな読書の時間に寄り添う空間となります。

【散策の庭】
地域の人々の手でガーデニングできるように基盤整備までとし、コミュニティの成長と共にある計画とします。

【エノキの道標】
施設西側出入口を基点に100m、200mの位置にエノキの木を植え、楽しくエクササイズできる工夫をします。街道沿いの一里塚のように、緑陰をつくるだけではなくサインの役割も果たします。

【アプローチ（銀の馬車道側）】

【アプローチ（銀の馬車道側）】
歴史的街道からのドラマチックな道行きを演出
路地空間とのつながりを重視したドラマチックな演出とします。歴史ある町並みを抜けると大らかな緑のはらっぱが広がり、計画施設が広場に寄り添うランドマークとなります。



【アプローチ（国道側）】
訪れる人を歓迎する植栽デザイン
施設までの道行きをシンボルツリー、サクラと花の咲く植物を織り混ぜて計画します。キャノピーの向こうには緑のはらっぱが広がり、次第に景色が展開する演出とします。

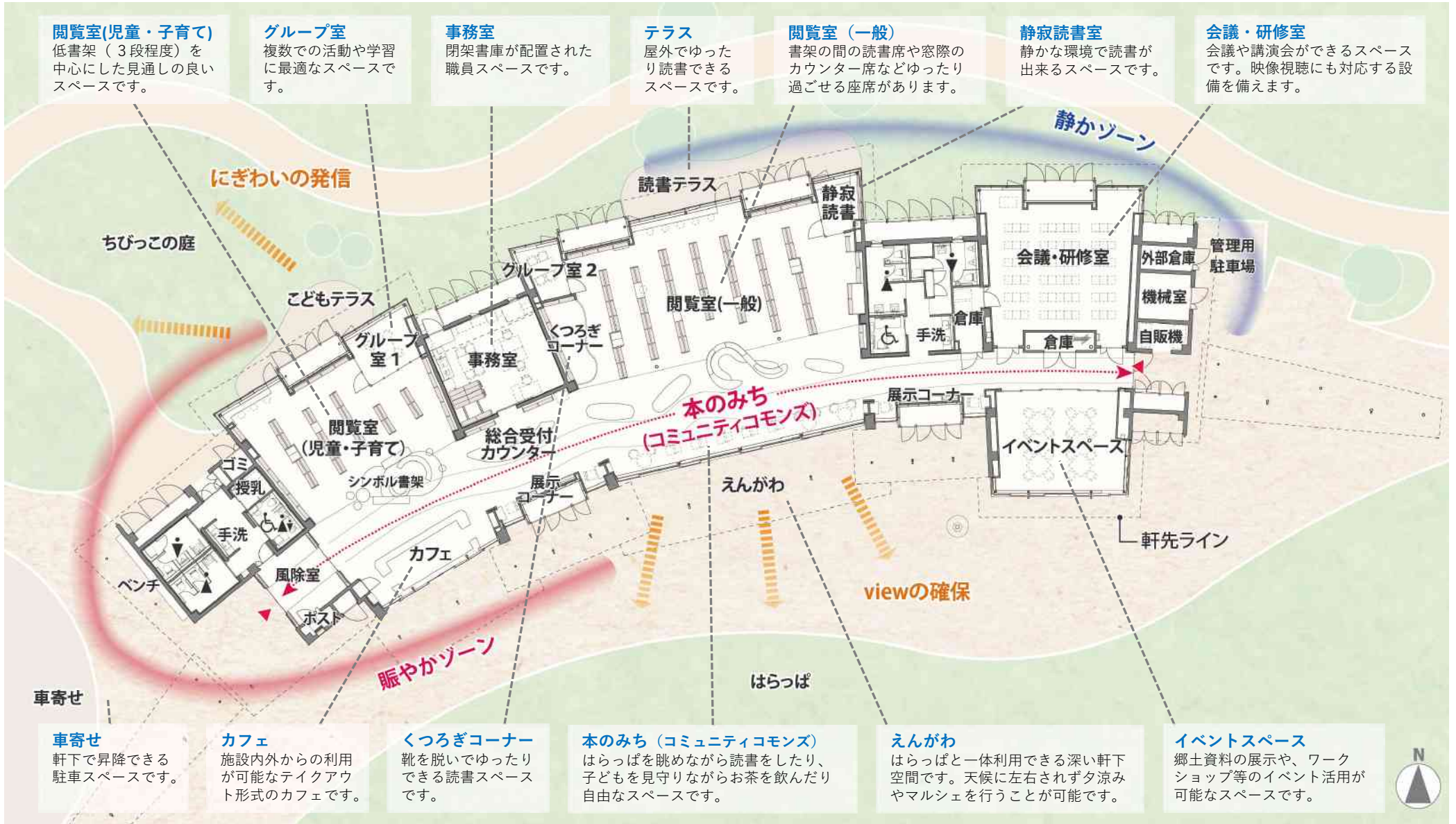
【南門】
入口に相応しい印象的な植栽
開花時期の異なる3種類のサクラの木や、花咲く低木を配置し3月下旬から6月まで花の咲き続ける訪れる人の記憶に残るような風景をつくります。

【えんがわ】
緑のはらっぱが大らかに横たわる「えんがわ」からの眺めを大切にします。周縁（主園路沿い）には樹木を植え、集いの空間を形成します。

【健康の庭】
小学校時代のシンボルのイチョウに加えて新しく樹木を配置することで緑陰をプラスします。少し囲まれ感のある空間とし、ラジオ体操やヨガ教室など、人目を気にせず汗を流せる雰囲気をつくります。

6 平面計画

- ・公園を回遊する園路に沿って東西を貫くコミュニティスペース「本のみち（コミュニティコモンズ）」を計画し、人々の居場所や交流の場として設えます。
- ・建物中央に総合受付カウンターを配置し、利用者にもわかりやすく、管理者にも見通ししやすい計画とします。
- ・賑やかなエリアと静かなエリアに適度な距離を保つことで、一つ屋根の下に緩やかな音環境を形成します。



7 断面計画

- ・周辺の風景に溶け込み、建物の熱負荷を抑えるよう、軒高を抑えた断面計画とします。
- ・ハイサイドライトを設け、自然通風の促進や拡散光の取り入れを行います。
- ・深い軒庇による陰影と奥行のある構成で、読書や語らいの場「えんがわ」を創出します。
- ・深い軒庇によって外壁や開口部を保護し、建物の耐久性を向上させ、維持管理しやすい計画とします。
- ・水回りの集約によりピット範囲を限定し、地下躯体量・土の掘削量を低減します。



【断面図】

8 外観計画

- ・山並みや農地、伝統的な町家が軒を連ねる銀の馬車道エリアなどの周辺環境に調和するよう、建物を分節しヒューマンスケールの建物とします。
- ・主要幹線道路「国道312号線」から賑わいを感じられるよう、屋根の傾きに変化をつけ、風にはためくようなリズム感のある表情を創ります。
- ・軒下は、透明感のあるガラススクリーンで外部に開き、オープンで開放的な雰囲気を作ります。



【敷地南西より建物を望む】



【敷地北西より建物を望む】

9 内観計画

- ・ワンフロアで見通しの良い計画とし、オープンな内部空間を形成します。
- ・開架閲覧スペースや本のみち(コミュニティcommons)の天井の仕上げに地域産材を用いて木質化を図り、木の香りに包まれた温かみのある内部空間とします。
- ・内部空間は可能な限り自然光を取り入れた明るい空間とします。
- ・馬車の車輪をイメージしたシンボルとなる家具や多様な座席など、気分に合わせて選択できる様々な居場所を創ります。



【閲覧室(児童・子育て)・カフェ】



【閲覧室(一般)・本のみち】